

労働災害による死傷者数 全産業

- ※ 出典は労働者死傷病報告、死亡災害報告、労災保険給付データ。死傷者数に死亡者数を含む。
- ※ 新型コロナウイルスり患者を除く。
- ※1972年以前は休業8日以上、1973年以降は休業4日以上の死傷者数を表す。



- ☞ 全国の令和6年の死亡者数は過去最少の746人(前年比-9人)でした。
- ☞ 令和6年の死傷者数は135,718人でした。

休業4日以上の死傷者数 全産

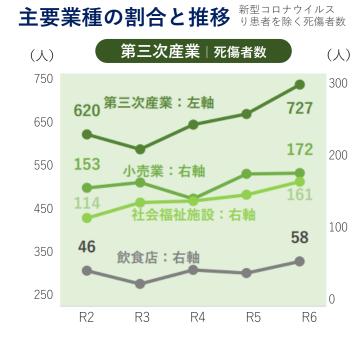
※ 出典は労働者死傷病報告、死亡災害報告。死傷者数に死亡者数を含む。



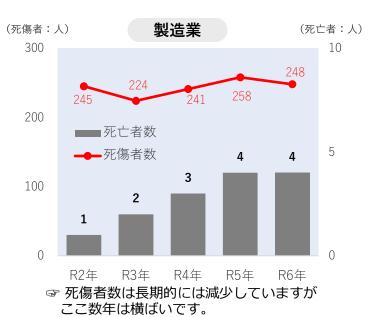
- 令和6年の死亡者数は10人(前年比 6人)でした。死亡者の業種内訳は、建設業1人、製造業4人、運輸交通業2人、商業1人、その他の第三次産業が2人でした。
- ☞ 令和6年の死傷者数は、3年連続で増加し(前年比+1.7%)、過去15年間で最多となり ました。

休業4日以上の死傷者数| その他 2% 54% その他 第三次産業 26% 令和 6年 飲食店 4% 社会福祉 陸上貨物 施設 運送事業 小売業 11% 8% 13% 林業 3%

第三次産業の割合が50%を超えています。



第三次産業の死傷者数は、年々増加して います。





☞ 死傷者数は3年連続で減少しています。



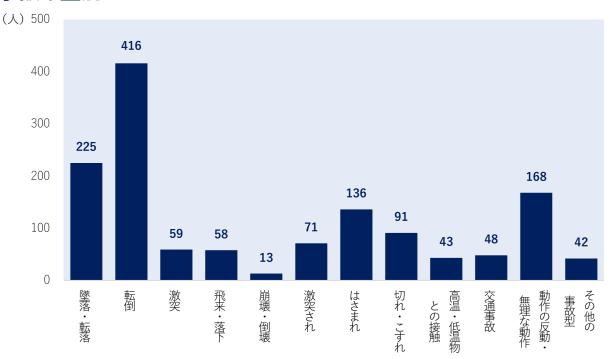
- 死傷者数はここ数年増減を繰り返して
- います。



- ☞ 死亡災害は発生しませんでした。
- ☞ 死傷者数は昨年、大きく増加しました。



事故の型別

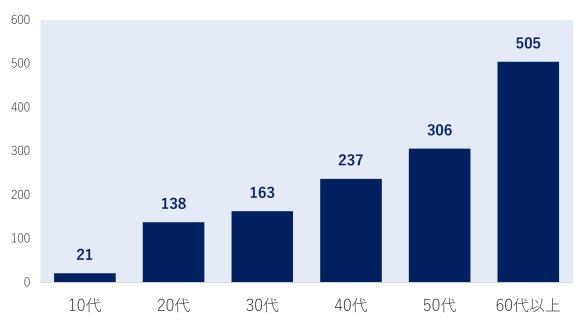


☞15年連続で「転倒」が事故の型としては最多の類型となっています。

令和6年の「転倒」の割合は30.3%となっています。

☞令和6年には「はさまれ、巻き込まれ」で最多の3件の死亡災害が発生しています。

被災者年齢別



☞年代が高くなるにつれて、死傷者が増えています。50代以上の年代で、全体の59%を 占めています。